

未来を見つめるまなざし【小学校高学年】

- 1 主題名** 誰にでも偏見の心が **内容項目** C 公正、公平、社会正義
- 2 ねらい** 父や陽太の話を聞いて自分の考え方を見つめ直す主人公「ぼく」の気持ちを考えることを通して、悪気がなくても周りの人に対して偏った見方をしていることがあるかもしれないことに気づき、誰に対しても公正、公平な態度で接し、多様な背景をもった人々と協調して生きていこうとする態度を育てる。

3 展開例

	学習活動と主な発問	指導上の留意点
導 入	1 事前アンケートの結果を見る。 ・これまで偏見や差別を見てひどいと感じたことはありますか。それはどんなことでしたか。	・公正、公平についての問題意識をもつ。 ・3の学習活動の際に、再度改めて示すことで、より印象的に自分との関わりでこれまでの自分を見つめられるようにする。
展 開	2 教材「未来を見つめるまなざし」を聞き、話し合う。 (1)外国人アスリートのような選手が入場してくるところを見ている時、ぼくはどんな気持ちだったでしょうか。 (2)父の話を聞き、自分の考え方との違いに気づきはじめてぼくは、ベッドに横になって、どんなことを考えていたでしょうか。 (3)未来を見つめるように話す陽太の話を聞き、ぼくはどんなことを考えたでしょうか。 3 自己を見つめ、振り返る。 ・14個の人権課題を知り、自分にも悪気はなくても偏った見方をしていることがなかったか、自己を見つめ振り返る。	・見た目で決めつけているぼくの心を考え、誰にでも悪気はなくても偏見をもっていることがあることについて人間理解を深められるようにする。 ・目には見えない一人一人の生き方や努力に称賛を送る父と、目に見える結果や見た目で判断していたぼくの違いを比較できるようにする。自分の中にある偏った見方や考え方を自覚したぼくの心の内を考えられるようにする。 ・相手を知りたいという思いや、実際に相手に働きかけることの大切さに気付くぼくの気持ちから、偏った見方をなくし、よりよい関係を築くことについて希望をもてるようにする。 ・事後資料「話し合ってみよう」の①②を読み、その後14個の人権課題を知らせる。人権課題を知った上で考えると、無自覚のうちに悪気はなくても偏った見方や考え方をしていたことがなかったか、自分を振り返り、見つめられるようにする。
終 末	4 教師の説話を聞く。	・事後資料「話し合ってみよう」の③④を投げかけて、問題意識をもたせて終わることも考えられる。

4 教材作成の意図と取扱いの留意点

令和3年1月に示された『令和の日本型学校教育』の構築を目指して(答申)では、「5 増加する外国人児童生徒等への教育の在り方について」の基本的な考え方として、日本人の子供を含め、異文化理解・多文化共生の考え方に基づく教育の更なる取組が求められている。このことも踏まえ、本教材は、見た目が外国人アスリートのような児童を話題とし、「公正、公平、社会正義」について考えることを意図している。教材では、外国人についての人権を窓口としているが、埼玉県の人権課題に視点を広げることで、自分にも偏った見方や考え方をして無自覚のうちに人を傷つけていることがあるのではないかと、改めて自己を振り返り考えられるようにした。

外国人児童や外国にルーツをもつ児童がいる場合には、その児童や学級の状況等に十分配慮した上で授業を行うようにすることが求められる。